

巻 頭 言

鳥取市立病院 病院長 大石 正博

処暑の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私がこの原稿を書いておりますのは9月下旬、記録的な猛暑もようやく落ち着き、日中の気温が30度を下回る日も増えてまいりました。近年は地球温暖化の影響で、9月もなお真夏のように、ようやく10月から秋を感じるようになったと実感しております。

さて、昨今の医療界で最も注目されている話題は、病院経営の厳しさではないでしょうか。当院を含め多くの医療機関が過去最大規模の赤字を計上しています。背景には、物価や人件費の高騰に対し診療報酬の改定が追いつかなかったことが大きな要因とされています。一昨年までは新型コロナ関連の補助金で何とか支えられておりましたが、補助金がなくなった昨年度から経営状況は一気に悪化しました。報道によれば、2024年度の自治体病院の決算では、経常赤字が86%、医業赤字は95%に上り、「過去最悪」の水準とされています。「病院倒産時代」「医療崩壊の危機」といった厳しい言葉も目にする状況です。

しかしながら、当院には明るい話題もあります。本年4月より、総合診療科、循環器内科、消化器内科、健診センターに新たな医師を迎え、常勤医師数は51名から59名に増加しました。また、研修医も定員の5名を採用することができました。地方における医師不足が深刻化する中で、地域医療を担う志を持つ医師たちが加わってくれたことは、大変心強く、喜ばしいことです。

こうした状況の中、「鳥取市立病院業績集 第31巻」を無事に刊行できますことを、大変うれしく思います。まずは、多くの成果を挙げてくださいました職員一人ひとりの努力と研鑽に、心から敬意を表します。皆様の献身的な姿勢が、患者さんへ質の高い医療を提供する原動力となり、当院の発展につながっています。本書を手にとっていただく皆様には、困難な環境下においても成長と進化を続ける当院の姿を感じ取っていただければ幸いです。

医療を取り巻く環境は大きく変化し続けています。私たちはその変化を前向きに受け止め、より良い医療を提供する方法を模索し続けなければなりません。今後もスタッフ一同、互いに支え合い、力を合わせながら、地域社会に貢献してまいります。どうか引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様の秋が実り豊かなものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。

令和7年9月

【病院理念】

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

【基本方針】

地域の中核的病院として、他の医療機関との連携、協調のもと、二次医療を中心に頻度の高い三次医療まで担当するなど、地域における医療福祉の向上に努め、地域住民の命と健康を守るため、医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指す。